

公立大学法人金沢美術工芸大学 令和7年度業務実績報告書 論点整理表

金沢市公立大学法人評価委員会

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究内容等に関する目標

中期目標	芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 金沢をはじめとする地域文化について、工芸の継承と発展など本学独自の視点による調査・研究に取り組む。 〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR7年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。 「地域特性を反映した研究活動」という年度計画と業務実績にある「志賀町絵画教室」の関連性を説明してほしい。	(ウ) 近隣自治体（珠洲市・志賀町など）との連携協定に基づき、地域特性を反映した研究活動を継続する。	○7年度は「志賀町絵画教室」と題し、志賀町の中高生を対象とした絵画教室を計2回実施した。本事業は、本学の教員および学生が講師となり、志賀町の中高生に対して絵画指導を行うもので、地域の活性化および本学の教育・研究活動の発信を目的として企画されたものである。本事業は、コロナ禍により中止されていた「志賀町・絵画塾」を引き継ぐ形で7年度より再開したものであり、今後も地域と連携しながら継続的な実施を予定している。 ○第1回は「石膏デッサン—木炭で描く」をテーマに、観察力や構成力など、ものづくりの基礎を学ぶワークショップを実施した。第2回はシルクスクリーンによるワークショップを行い、Tシャツやトートバッグの制作を通して、版画技法および表現の展開について学ぶ機会とした。	IV		36 75



〔次頁へ〕

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究内容等に関する目標

中期目標	芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
〔回答〕 ※前頁より 志賀町との連携事業の1つであった「志賀町・絵画塾」については、コロナ禍により中止となり、折しも能登地震もあって再開が遅れていたところ、7年度になってようやく志賀町との調整が進み、「志賀町絵画教室」として、地域の活性化および本学の教育・研究活動の発信を目的に実施することができたことで、計画を上回って実施できたものと考えている。 志賀町と実施していた事業は、地域の要請により、これまでは現地で志賀町の絵画を描くという事業だったが、今回は新キャンパスに生徒を受入して共通工房の施設を利用し、デッサンをテーマにしたものづくりの基礎を学んだり、版画技法を学ぶ機会とすることで、より広い絵画領域への活動へ深化したことが水準を上回り、参加した生徒も非常に喜んで積極的に参加していただいたことから、評価をⅣとしたものである。					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究の実施体制等に関する目標

中期目標	特色ある研究活動を推進するとともに、研究水準の向上を目指して、研究基盤の強化を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 美術工芸研究所の運営体制等の整備・検証に努め、研究基盤の強化を図る。 〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのかを具体的に説明してほしい。 業務実績に書かれていることは年度計画どおりのことに見える。具体的にどの水準を上回っているかが不明確である。	(4) 社会共創センターにおいて、地元企業等との共同研究（地域連携・産学連携）の充実を図るとともに、ふるさと納税返礼品の制作・出品について調査・研究を行う。	○地元企業との連携を充実させるため、6年度に制作した動画を公式YouTubeにて公開したほか、オープンキャンパスでも来場者向けに上映して広報に努めている。 ○社会共創センター会議でふるさと納税返礼品などについて協議を行い、その会議での意見や他大学の事例から実現可能な案を抽出し、外部委託によるアンケート調査を実施した。調査結果からは、本学の返礼品として社会連携の成果品やオーダーメイドの工芸品などを望む意見が多いこと、寄付額は1～3万円未満程度がボリュームゾーンであることが分かった。まずは金沢市が実施する金沢版ふるさと納税活用大学寄付金の活用状況などを注視し、今後の対応を検討したい。	IV		42 53



〔次頁へ〕

56

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究の実施体制等に関する目標

中期目標	特色ある研究活動を推進するとともに、研究水準の向上を目指して、研究基盤の強化を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
【回答】 ※前頁より 地元企業との連携を充実させるために、言葉での説明が難しい共同研究（地域連携・産学連携）の意味合いを端的に伝えるための動画を作成し、広くPRに活用してきた。その成果もあって、徐々にではあるが、本学の行う美術・デザインの力での共同研究（地域連携・産学連携）に理解・関心を示す地元企業が増えてきており、7年度は例年に増して8件（6年度は4件）の地元企業と共同研究を行うことができた。 ふるさと納税返礼品に関しては、当初、簡単なアンケート調査を経て、見本制作を検討していたものの、単純な「モノ」だけでなく、学長による学内案内や寄附者の意向を聞いてオーダーメイドで制作する工芸品など「コト」による返礼も検討していくこととなり、統計学的に有用な人数から得た結果から、当初想定していた以上に「コト」による返礼品を望む意見を得ることが出来た。 以上をもって、評価をⅣとしたものである。					

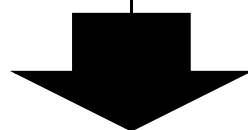
社会との連携に関する目標

中期目標	社会連携事業(地域連携・産学連携)を推進し、教育研究の成果を積極的に社会に還元するとともに、地域の文化と産業の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 歴史文化都市として、様々な地域資源を有する金沢市に加え、珠洲市をはじめとする他の自治体との連携を通して、教育研究成果を社会に還元することにより、地域文化の発展に貢献する。	(ウ) 能登地域の自治体等と連携した教員や学生の復興活動を支援する。	○公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の主導により、輪島市図書館へ寄贈される移動図書館車両の外装ラッピングデザインを制作した。 ○輪島市では常設図書館が震災被害を受け、現在も仮設図書館での運営が続いている。加えて、市内の仮設住宅に入居する住民を対象に、シャンティ国際ボランティア会が6年度より図書巡回サービスを試験的に実施している。今回、新たに専用の移動図書館車両を制作・寄贈することとなり、本学にデザイン制作の依頼があった。 本学美術科・デザイン科の教員および学生が車両外観デザインを検討し、利用者にとってわかりやすく親しみやすいデザインを提案した。複数案の中から、「輪島市の空と海、本」をモチーフとしたインダストリアルデザイン専攻の学生案が採用され、実車制作に至った。 12月には輪島市において車両贈呈式が開催され、デザインコンセプトの紹介とともに目録が手渡された。車両の引き渡しを年明けとなることを踏まえ、贈呈式に合わせて完成イメージスケッチを新たに制作するなど、広報面も含めた支援を行った。 ○美術展「ホスピタルギャラリー能登—病院が美術館になる日—」を、12月13日～14日の2日間、市立輪島病院において開催した。本展は、被災地域である輪島市立病院の待合ロビーを会場に作品展示を行い、市民に心の潤いと交流の場を提供することを目的としたものである。 金沢市立病院および本学は、ホスピタリティアート・プロジェクトの一環として本事業を後援し、過去14回の開催実績を有する「ホスピタルギャラリー」のノウハウを活かし、運営面で支援を行った。本学教員がコーディネーターを務め、ポスターや募集要項等の印刷物、会場設営全般について監修した。 ポスター制作は本学大学院修士課程油画コース1年生（羽咋市出身）が担当し、芸術学専攻2年生1名がボランティアとして会場設営等に参加した。震災直後には避難所やトリアージの場となっていた待合ロビーには約50点の作品が展示され、2日間で延べ212名が来場した。会期中は輪島病院の医療関係者および事務局職員が受付・監視業務を担当し、来場者からは本展開催に賛同する声が多く寄せられた。	IV		45-1 45-2

【質問・意見等】
なぜ評価がIVなのかを具体的に説明してほしい。

「金沢市立病院・・・」以降の記述は必要か(復興活動支援という計画との関連が不明確)。その上でIVになる理由を説明してほしい。



【次頁へ】

社会との連携に関する目標

中期目標	社会連携事業(地域連携・産学連携)を推進し、教育研究の成果を積極的に社会に還元するとともに、地域の文化と産業の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
〔回答〕 ※前頁より ○「金沢市立病院・・・」以降の記述については、事業の詳細を述べるためのものであり、割愛したい。 ※輪島市立病院での活動は、金沢市立病院で長年行ってきた活動ノウハウがベースとなって開催できたものであることを具体的に説明したものである。 ○評価Ⅳとしたのは、能登地域の復興支援に関し、6年度に比べて数多くの自治体への協力をしてきたことにある。 この項目には記述はなく、他の項目で記述しているものとして、 ・能登半島地震地域コミュニティ再建事業のロゴマークの制作 ・インタビュー及び映像作成を行い震災の今を発信 ・能登半島地震で統合された輪島の3つの学校の校章デザイン制作【以上、再掲73】 また、研究項目ではあるものの、近隣自治体(珠洲市・志賀町など)との連携協定に基づき、地域特性を反映した研究活動を継続するために、志賀町にて「志賀町絵画教室」を実施する【再掲49】など、社会連携以外でも能登地域の復興支援に対する協力を惜しまずに行ってきたため、評価をⅣとしたものである。					

社会との連携に関する目標

中期目標	社会連携事業(地域連携・産学連携)を推進し、教育研究の成果を積極的に社会に還元するとともに、地域の文化と産業の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(I) 小中学校、高等学校と連携し、芸術関連の教育と啓発活動を実施する。	(7)新たに「金美」次世代育成事業を立ち上げ、これまでの高校生に加え、中学生を対象にした模擬授業等を実施し、次世代の担い手を育成する。	○7年度は、初めて、市内中学校美術部の生徒74名（金沢市立泉中学校 12名、金沢市立長町中学校 31名、金沢市立森本中学校 31名）を対象に美術、デザイン、工芸の模擬授業を開講した。参加生徒は、大学の専門的な学びを体験することができた。 更に、6年度に引き続き、市内の高校生の生徒158名（石川県立金沢辰巳丘高等学校(芸術コース 1年19名)、石川県立工業高等学校(工芸科、デザイン科1年71名)、金沢市立工業高等学校(電子情報科、建築科1年68名))を対象に日本画、油画、彫刻、工芸、ホリスティックデザイン、インダストリアルデザイン専攻がそれぞれの特性を生かした模擬授業を開催し、本学の魅力を発信した。	IV		50-1 50-2 50-3 50-4

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのかを具体的に説明してほしい。

中学生を対象にした模擬授業の実施は年度計画どおりのことに見える。具体的にどの水準を上回っているかが不明確である。



〔次頁へ〕

社会との連携に関する目標

中期目標	社会連携事業(地域連携・産学連携)を推進し、教育研究の成果を積極的に社会に還元するとともに、地域の文化と産業の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
〔回答〕 ※前頁より 中学生向けの模擬授業については、年度計画としては計画どおりではあるが、美術部を対象にしたところ、想定より多くの中学(8校)からの申込があり、そこから3校に絞り込んで開催したことや、美術部を対象にしたことで、日頃から美術に興味のある生徒にとっては、大学の専門的な学びの体験に繋がれたことから、想定を超える事業成果が出たと考えており、評価をⅣとしたものである。					

その他業務運営に関する重要目標 4 安全管理に関する目標
--

中期目標	学生及び教職員の健康と安全を確保し、良好な教育研究環境を維持するため、災害、事故、犯罪、感染症等の安全管理に関する取り組みを推進する。
-------------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 危機管理体制の明確化を図る。	(7) 防災訓練の実施など、危機管理の充実を図る。	○6年度に引き続き職員に対して新キャンパスの消防設備等に関する講習を実施した。また、教職員を対象とする安否確認訓練及び職員を対象とする災害発生を想定した非常参集及び初動体制の確認訓練を実施した。 ○火災や災害発生を想定した新キャンパスにおける避難訓練実施を目指して、7年度は新たに全教職員を対象として図上避難訓練を実施した。この経験等を活かし、8年度は避難訓練の実施を目指す。 ○9月に新任の教職員や希望者約40名を対象に、一次救命の正しい知識とAEDに関する知識を習得する救急救命講習会を開催した。	IV		64-1 64-2

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのかを具体的に説明してほしい。

図上避難訓練の実施は年度計画どおりのことに見える。具体的にどの水準を上回っているかが不明確である。



〔次頁へ〕

118

その他業務運営に関する重要目標
4 安全管理に関する目標

中期目標	学生及び教職員の健康と安全を確保し、良好な教育研究環境を維持するため、災害、事故、犯罪、感染症等の安全管理に関する取り組みを推進する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
〔回答〕 ※前頁より 新キャンパスへの移転前後において、効果的な避難訓練等を実施できておらず、また、移転後の危機管理体制の構築に時間を要していたため、実地訓練が遅れていたものである。移転直後から、通常通り授業を行うことが最優先であり、建物や設備の使用方法や危険箇所について、十分に把握することに時間を要したことも一因である。 今般、市の消防局とも調整を重ね、年度計画を組んで訓練を実施していくこととなり、図上ではあるが初めて本格的な訓練を実施することができたため、評価をⅣとしたものである。					

その他業務運営に関する重要目標
5 人権擁護及び法令遵守に関する目標

中期目標	人権尊重、知的財産保護、研究倫理、法令遵守に関する意識向上とその徹底を図るとともに、各種ハラスメントの防止に向けた取り組みを推進する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 教職員の倫理意識の啓発や人権侵害等の防止を図るための研修等を実施する。	(7) 教職員の倫理意識の啓発や人権侵害等の防止に向け研修を実施する。	○7月10日に、全教員及び研究費の執行・管理に従事する職員を対象に、研究不正防止推進会議による「研究不正防止研修会」を開催した。終了後には理解度チェックテストを行い、その結果を受講者にフィードバックするとともに、8月の教授会で解説を行うことで、研修内容の理解促進と定着を図るとともに、教職員の研究倫理不正防止に対する意識向上に努めた。研修当日の欠席者には研修会資料の通読と理解度チェックテストへの参加を促し、フォローアップを行った結果、受講率は100%となった。 ○これまで職員に対して実施していた情報セキュリティ意識調査を教員にも拡大して実施し、その結果と解説を教職員にフィードバックすることで、理解促進と意識向上に努めた。	IV		68 70

〔質問・意見等〕

なぜ評価がIVなのかを具体的に説明してほしい。

研究不正防止研修会の開催や教員に対する情報セキュリティ意識調査の実施は年度計画どおりのことに見える。具体的にどの水準を上回っているかが不明確である。

〔次頁へ〕

124

その他業務運営に関する重要目標
5 人権擁護及び法令遵守に関する目標

中期目標	人権尊重、知的財産保護、研究倫理、法令遵守に関する意識向上とその徹底を図るとともに、各種ハラスメントの防止に向けた取り組みを推進する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
〔回答〕 ※前頁より これまで、情報セキュリティ意識に関しては意識啓発のみ行ってきたことから、毎年度行っている研究倫理不正防止の意識上のために行っている研究不正研修会を参考に、情報セキュリティ意識調査とその解説を行ったものであり、その拡充をもって評価をⅣとしたものである。					